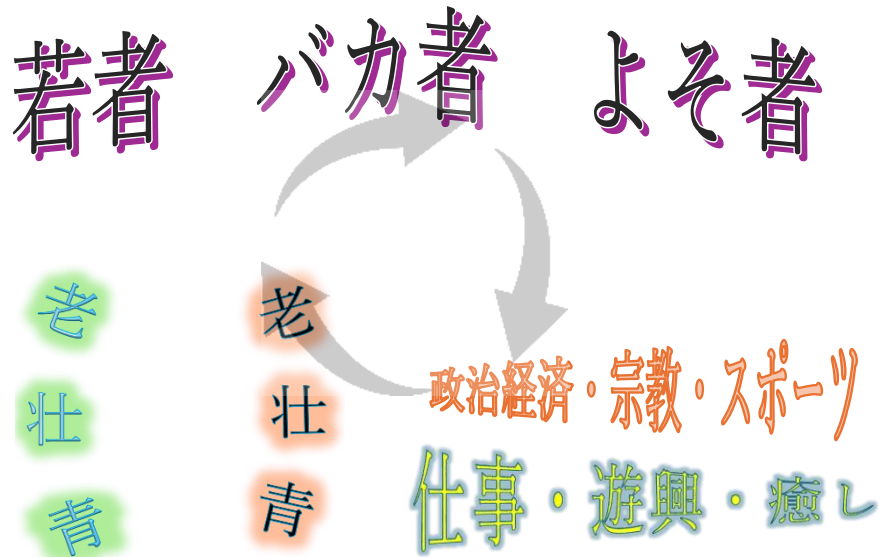


私が欲しい自由闊達な雰囲気・対等互啓（恵）の場

時間も空間もみんなに平等に通貫しているのだ！

“すっだくなる”面白い雰囲気の間



嫌悪し、憂鬱になる雰囲気の間

“この時・この場では、アレ言うてダメ、
コレ言うてダメ！”

“この時・この場では、ア～しなければならない、
コ～しなければならない！”

(杓子定規の既存言説を振り回していい気になっている”ア縫自^{あほうじ})

・偉そうに裁判官気取り

や き も ち ねい かん
・マンキタゲ倭奸根性

こういう安っぽい仕切り屋は、
百害あって一利なし、不要

『ごちゃ混ぜ』受容の寛容精神持ち主の集まり

信用信頼できぬ胡散臭い性格が入った集まり

根底の深層精神から

寛大三美言 [①私の仕事じゃないと言わない(それも私の仕事だ)、
②利他、③先回り] の至純な香りが噴き出す

根底の深層精神から

醜態三否言 [①出来ない、②無理だ、③やったことない] を平気で発し汚
れ切った悪臭を放出

仕切り・壁・境界がない楽しい世界

息苦しい・窮屈・陰険な世界

特に吾がコミュニティでのさばるへぼ仕切り屋がほざく一番多いのは、“こんな酒飲みの中で仕事の話をするな・・・　こんな処で政治宗教の話をするな・・・　こんな場で町内会の話をするな・・・　そげだ難しい話をするな・・・などである。

あなたは何様なのかと問いたい！　裁判官気取りの阿保どもである。同調圧力をかけて威張りたがるのである。

2名以上の複数が集まったこの時間・空間は、もはや、あなたの独占を許す時空ではないのだ。したがって、時空を分割する権限はないのだ。

同調圧力をかけて、自分の価値基準を当て嵌めた場に誘導して行くどんでも野郎がのさばる場は本当につまらない。**一定の限定枠に嵌められて行く趣となり、とても不愉快になる。　いろんな思想信条が飛び交うごちゃ混ぜの場だからこそ楽しくなるのである。**

仕事のこと、政治・経済のこと、宗教のこと、町内会コミュニティのこと・・・生きていることとみな密接不可分の大事な事柄である。意見・主張が対立することもあるだろう、難しいこともあるだろう、その要因はそれぞれの勝手な価値基準の相異にあるからだ、**これはお互い様である。ならば、この雰囲気、すなわち「ごちゃ混ぜ・硬軟自在」を全部許す心情こそが真の「寛容」である。　そういう寛容なくしてどうやって協調が図られるのか。そんなことでは融和は図られないのだ。**

世の「醜態三否言」^びと「寛大三美言」^{讀 び}の両者は、姿勢においては真逆、激突するのだ

世の「醜態三否言」 ⇐ 後退志向	激突	「寛大三美言」 ^讀 前進志向 ⇒
課題解決に障害となる言葉、明るい職場環境や地域活性化を阻害する言葉 ⇓ (・・・そんなこと) × 出来ない! × 無理だ! × やったことない! (自分に対し、他人に対し) 絶対に発言してはダメな言葉だ 絶対に許してはならない言葉だ 絶対に同情してはならない言葉だ		
⇓ ✓ それは、競争意識の中で渦巻く「妬み・ひがみ・しょねみ」(マンキタゲ佞奸根性) から発症、顕在化するゆがんだ感情なのだ。 ✓ 前向きな創造的提案をつぶす実力行使的感情なのだ。 ・“現状、困ったことが何も起きている訳ではないよ、今までどおりでいいべや” ・“何も、今更、波風立てる必要はないべや” 他人に越されたくないという深層心理。 やりたくない姿勢の公然化 (自分が先立ちたい、しか、当事者になりたく無いというずるい・卑怯な心理)		この精神はハードルが高い(要自己錬磨) しかし、当たり前なのだ

率先垂範、自ら開拓・実行する姿勢を表現
慈愛(優しさと気遣い) 発露を表現

“やるにはどうするか、どうすればやれるか!”